

慶応二年四月二日より慶応二年四月五日まで

P8310580 right

定番役並茂呂恒之丞来り面す、第十時比縫殿頭(*)殿御旅宿へ御断申、直に運上所へ出る
久次へ欧州産品を遣す(羽織地)、第二時より縫殿頭殿へ佐州供に随行仏国
ミニストルへ此本御咄の義、御談判有し帰途、仏語学所へ寄り一同第八時帰宿
星野(備)本日出張せしに付、旅亭へ留り面晤す、星野(備)来り縫殿頭御示□の義
に付伝語有し

三日辰 雨朝より晴午前震、午前雷気雨

朝第六時半出立、第十時蒲田小休第十一時過、品駅午休、第二時半帰着、昨日五郎次大砲
差図役並へ転ず、太郎を賀に遣し鯉節箱を贈り藤女も泊宿に遣せし旨、一昨朝五郎次(金川)
出入跡へ

来り昨日も廻勤後立よりし旨、保三帰着せしとて来りし旨、沢(錦)此度御褒賞賀として

P8310580 left

鯉ぶし一大管を贈り越せし旨、柳斎稽古に来る、旧婢鉄(良藤)家内)の母鶏卵持参、鯉ぶしへ
式朱添遣す

保三京産筆洗陶器、扇その外小品種に添持参、酒飯等を勧む、須崎老人兩人同道来り

小品持参蕎麦等を設く柳亭一同泊宿、抱屋敷の義に付、昨日正覚来りし旨

四日巳 晴午後陰

出 殿、縫殿頭殿本日御引に付、御同人金港御談判は縷々作州共に和泉守殿へ建白、江連(加州)
病を

訪ひ蒸菓一管を贈る、鶏卵一管を□はる、正覚抱屋敷の義に付来りし旨、保三帰着、賀として
鯉ぶし

一折を遣し、且欧品(革巾着)を遣す、山本(長)来る、蕎麦を設く

五日午 雨

昨本(和泉橋)出水ありし趣に付、菊池(豫)へ見物使者遣す、上田(友)来り面す、出 殿過日
買入候

*1:縫殿頭(ぬいどののかみ)

()内は細字双行(一行に小さい文字で二行書き)などの場合です。

□印は解読未了の文字です。私の実力ではすぐ解読できません。16,

【文字判読不可】、■は、文章の一部に汚れあり、虫食いにより文字が無い等です。